

§ 幻夢世界での生活

1) 経済活動

- ・貨幣は、王国が主導で発行している金貨と銀貨が存在するが、通用するのは王国、公国、帝国だけである。
- ・世界全体としては、まだ物々交換が主流。一部のアーティファクト（特に紋章石や回復石）が通貨のかわりに使われる他、紋章の力を労働力として対価とすることも多い。
- ・物流は行商人の移動に頼っているのが現状。輸送は馬車が3割、巨大蝸牛が7割程度。馬車は主に王国と帝国で使用されている。巨大蝸牛は、王国ではその見た目から評判が悪く、帝国ではその暑い気候のせいで相性が悪いため、この2国では使われる数が少ない。巨大蝸牛は、御者が上手く操ってやれば水上移動が可能のため川や湖を場所に関係なく渡ることができることが、王国と帝国以外で多数使用されている理由である。

2) 農村での暮らし

- ・麦にそっくりな植物をメインに生産。その実を荒砕きし、煮込んだオートミールのようなものが主食。
- ・野菜は、ジャガイモとサツマイモの中間のような芋が大量に収穫できるので、多くの農村で栽培されている。
- ・他にはトマト、ダイコン、キュウリ、ナスビに似た野菜も栽培されている。
- ・《土》の紋章があれば、田畑や畔の整形と耕作に対し、重機並みの作業を一人でこなすことができる。
- ・《木》の紋章があれば、土壌の栄養調整や、作物の育成速度を調整可能なため、収穫量や質もコントロールできる。
- ・《水》の紋章があれば、田畑に必要な水まきを水源が無くても可能である。
- ・多くの村では、《土》、《木》、《水》の紋章を持た者が協力して農作物の生産を行っている。そのため農地は個人所有ではなく、村の共有財産である。子供であっても、紋章の力が使えるのなら、大人の手ほどきを受けながら農耕作業に従事させられる。適切な紋章が無い者は、草引きや周囲の見回り、柵の設置、肉の確保といった作業を割り当てられる。
- ・紋章の力を使った農業は、連作障害や害虫などの影響をほとんど受けないため、確実かつ大量の収穫が見込める。そのため、過剰生産になりがちだが、それは行商人に嗜好品や村では生産できない物との交換に利用する。
- ・《金》の紋章を授かった者は、鎌や鋤といった農機具の他、鍋やヤカン、食器等を作成することで村に貢献する。
- ・《武》の紋章を授かった者は、ナイフや包丁などを作成して提供する他、自らハンターとなって肉の獲得を行う。
- ・《火》の紋章を授かった者は、収穫された食材の調理を担当する。世界観的に生食は病気になるという考えが浸透しており、沿岸部であっても魚介類は生で食べるということはない。基本的に「焼く」か「煮る」という調理法で、必ず加熱して食べる。
- ・塩、胡椒、醤油といった調味料は存在しないが、同様の味と成分を持ったハーブが多数存在している。
- ・一部の茸類がいっしょに煮込むと旨味が増すことがわかっており、味付けに使われている。

- ・森に多数生息しているピグーが、簡単に捕まえられる上に、適度に間引かないと増えすぎるので、肉類の供給源である。ピグーの肉は要するに霜降りの豚肉、革は特定のハーブの液体に漬けることで革製品に、脂身は燃料や着火剤に使用できるので、重宝されている。利用しにくい部位は、森に捨てておくとピグーやその他の魔獣が始末してくれる。
- ・スワンプボアやブラストバッファローも、肉としては良質である。しかし、これらの魔獣は普通に住人を襲うので、肉の供給源というよりも討伐対象である。畜産に挑戦する者もいたが、魔獣は基本的に狂暴で好戦的、囲いなども紋章の力で破壊してしまうため、飼うことは断念されている。

3) ハーブ・茸類

ここではよく使われるハーブと茸を紹介するが、そのよくわからない命名は誰が行ったものが知られていない。今の所、植物に詳しい迷い人が命名したというのが有力な説である。

A) エンノソウ

- ・土中のミネラルを吸い上げ、葉の裏に白い結晶として蓄える性質を持つハーブ。
- ・その白い結晶は塩と同じである。この葉を刻んで入れることで、料理に塩気の味付けが付加される。

B) サトノソウ

- ・小さく白い花を咲かせる球根系ハーブ。球根部分が分裂して増える。
- ・球根の部分は非常に甘く糖度が高い。料理の味付けに使われる他、甘味を作るのにも使用される。

C) スソノソウ

- ・密集して細い葉が生えるニラのようなハーブ。葉を潰すと酸っぱい臭いがする。
- ・肉や魚と合わせて料理することで、臭みが取れ、旨味が増す効果がある。

D) セウノソウ

- ・細い茎に黒い花を咲かせるハーブ。茎の部分を絞ると黒い樹液が採れるが、これは醤油とほぼ同等の成分である。
- ・スープにコクを加えるために使用される他、焼き魚と相性抜群である。

E) ミソノソウ

- ・肉厚な葉が花のような形に生えるハーブ。葉をすり潰しして茶色のペースト状にしたものがスープや煮物の味を調べ、旨味が増すとされている。
- ・すり潰したものは、人によって腐敗臭に感じられることもあり、このハーブを料理に使う者は少ない。

F) ナメシソウ

- ・ピグーの革や他の動物の毛皮などを衣類や道具類として加工するための素材に変化させる効果を持つハーブ。実際にはどこにでも生えている雑草として知られる名も無い草だった。
- ・発見されたのは偶然、その草の汁まみれのピグーをとらえた際のことだった。剥いだ皮が妙に丈夫で、革素材として使えることが分かった。そこから試行錯誤の末にその草が割り出され、それまで捨てていた皮が革素材として利用されることになった。

G) ウマミダケ

- ・別名「万能茸」。干すことで長期間保存できるため、収穫してもすぐには使わないことが多い。
- ・スープや煮物には直接入れる、肉などの焼き物にはスライスしたものを載せて同時に焼くことで劇的に美味しくなるというものである。

H) コラゲダケ

- ・煮込むと煮汁が餡のようにトロトロになる茸。このトロトロはコラーゲンに近い成分であり、この茸を入れた料理を食べると、肌や髪の艶が向上するため、女性に大人気である。

4) 生活用品

以下の生活用品は、いずれも対応する紋章があれば簡単に作成できるが、その強度や外見は当人のセンスによる。また、対応する紋章を授かっている、使いこなせない者がそれなりに存在する。

- ・《土》の紋章→水瓶や酒を入れておく壺などの土器。
- ・《木》の紋章→木製の桶、スプーン、皿などの食器。
- ・《金》の紋章→鍋やフライパン、金属製の食器、ノコギリや鋏などの農機具。
- ・《武》の紋章→ナイフ、鉞、弓といった武器としても使用できる用品類。

当初の幻夢世界には、ガラスといったものが存在しなかった。ガラスという存在をもたらしたのは、《土》の紋章を授かった迷い人であったといわれている。この迷い人は王国に現れたため、その有用性に気付いた者達からはひっぱりだこになる。王国は囲い込むために即座に爵位を与え、貴族の娘を嫁がせた。

最初はガラス瓶の生産が主だったが、ガラス窓を試作した結果、どちらも最優先で生産させられることになり、貴族としては裕福になったが、ブラック企業も真っ青な生産労働をさせられることになる。

《土》の紋章の力でほぼ無尽蔵に生産できるが、本院の集中力というか精神力はそれに耐えられるわけが無い。過労で倒れたその迷い人を見て王国側は考えを改めた。

《土》の紋章を授かっている者達を集め、知識と技を継承させる方針に切り替えた。当初から利権の独占を考えられていたが、生産が止まる方が問題視された。貴族の子女を中心に、多くの弟子が生まれ、王国内でのガラス瓶やガラス窓が急速に普及することになった。

従来窓は、壁に穴を明けてあるだけで、雨天や必要に応じて板や布で覆う物であった。枠にガラス板をはめ込み、開閉式の窓が開発されると、最終的に公国や帝国に（非常に高価ではあるが）輸出されるようになった。

5) 幻夢世界の旅人

- ・紋章の力を合わせて村人総出で行う農業により安定して生活できるため、旅に出るものは少数派である。
- ・ハンターギルドの成立以降、村から村へ農作物の循環を行う行商人が現れた。村での過剰生産品の流通が主流だが、特定の村でしかとれない特産品だけでなく、食器、雑貨、武具等、なんでも扱うのが行商人であり、特に辺境の村では重宝されている。
- ・各地に点在する遺跡を巡る探索者も、この世界の旅人の中には多い。特定の遺跡だけに絞って攻略する者もあり、入手したアーティファクトを都市部で売るのが主流である。
- ・旅の道中、魔獣に襲われることもよくある他、くいつばぐれや村に適応できなかったはみ出し者たちが野盗になって旅人を襲うこともよくある。そのため、行商人達

は、戦闘能力に優れた傭兵や探索者を同行させることで、旅の安全を確保している。

6) 不適合者たち

- ・授かっている紋章の力を使いこなせない者達がいる。紋章の力を使いこなすには、一定のセンスが必要だが、同じ紋章の使い手がいれば、その者から学ぶことができるはずである。しかし、一定数使いこなせない、もしくは一遍通りの使い方しかできない者が存在した。
- ・使いこなせない者の最たる例は、繊細な操作ができないというものである。例えば、《火》の紋章の使い手は、その火の調整が上手にできれば、優秀な料理人になれる。しかし、いくらやってもロウソク程度の火しか出せないとか、逆に消し炭を作ってしまう火力しか出すことができないという者がある。このような者達は、最終的に町や村で居場所を無くし、社会不適合者となってしまう。そうしてはみ出した者達が集まったのが、野盗や山賊となって街道を脅かすのである。

§ 各国の首都

ここでは幻夢世界に現存する5大国の首都について解説する。

1) グレンフィッチ王国：王都「グレンフィッチ」

- ・建国王「ジョージ・アーサー・ルード・グレンフィッチ」の主導によって作成された王城とそれを取り巻く城下町。
- ・建国王は迷い人であったといわれている。彼は図書館遺跡を攻略し、それによって得た知識で人材を集め、建国を行った。
- ・王都の工事は、まず川の莫れを制御する所から始まった。近くの山脈から流れる川2本を統合するように水路を作成。都市の地価に下水路を設置し。川→上水道→下水道と流れるように基礎工事を行い、その上に都市を建設した。
- ・王城の基礎部分は、どういうわけか不揃いな石が隙間なく器用に積み上げて作られている。《土》の紋章の力で作り上げられたといわれているが、それなら継ぎ目の無い一枚岩のようになるか、ほぼ同じ大きさの石を組み合わせたパターンになるのが、《土》の紋章持ちの多くの見解である。現在では基礎部分がどうやって作られたのかは謎である。

2) レメオス帝国：帝都「レメオス」

- ・帝城「レメオス・ボグ」は、全体が灰黒色の石で作られている。他国の巨大建築物と同じく《土》の紋章持ちの力を総動員して作成されたが、その一見、不気味とも言えるその城の色は、建国当時の皇帝の指示であったといわれている。
- ・火山の影響で年中暑いこの国の都は、水源の確保が問題だった。現在の帝都の場所が決まったのは掘ると豊かな水量を持つ井戸がそこら中に作れたことが要因の1つだった。
- ・海岸から見ると、城は火山を背にしている。城自体は非常に背の高い建築物であり、遠くからでもよく見える、巨大といってもいい構造物である。帝都の住人にはほとんど知られていないことだが、実はこの城は火山から吹き降ろす風を利用して、都に降る火山灰を外へ吹き飛ばすように設計されている。空気に敏感な外国の者達が帝都に入ると「空気が違う」というのはよく聞かれる話である。
- ・城下は港湾部をもつ海運都市でもある。港湾部には青槍兵団「ブラオツヴァイ」の拠点とその船団を運用する基地がある。

3) エノムトゥール大公国：首都「アルベルス・ジーン」

- ・樹上都市ともいわれる首都「アルベルス・ジーン」は、地上から30～50mの高さに3層の構造を持つ都市である。
- ・下層が一番広く、居住区と商業区が存在する。
- ・中層は公爵家の屋敷とそれを取り巻く貴族街である。その外周部分は飛竜や巨大蜻蛉を運用する軍事施設でもある。
- ・上層は大公家の屋敷を中心とした政治を行う区画だが、そのあちこちには備蓄倉庫が隠されている。これは非常時に籠城するためだが、飛竜や巨大蜻蛉による運搬物資を格納するためにも使用されている。上層にも飛竜や巨大蜻蛉を飼育・運用するための軍事区画が存在する。
- ・下層まで地上から30mとはいえ、地上との交流のため、3か所だけ道幅約5mの螺旋スロープが設置されている木が存在する。《木》の紋章持ちであるエルフ達は、このスロープを使わず、紋章の力でロープを作り出したり、枝を操作することで地上と行き来している。
- ・地上からの物資は、巨木を垂直登攀できる巨大蝸牛が用いられている。登攀する巨木は決められており、それぞれ商業地区に直結するものばかりである。

4) レトニーウ共和国：中央都市「レトニーウ」

- ・海岸と大河の河口に隣接する位置に発展してきた交易都市。
- ・海運と陸運の交差する地点として大きくなってきたが、圧制を強いる貴族によって富を吸い上げる場所だった。
- ・王侯貴族が妥当された際、その屋敷のほとんどは焼き討ちにあって無くなってしまった。この都市には比較的損傷の少ない大きな屋敷があったため、それを議会政治の施設として使用している。
- ・都市自体は、初めて来た者は迷うことがよくあるほど、複雑な構造をしている。これは都市計画など無しに無秩序に広がっていった弊害である。この状況を利用して子供たちが都市の案内をして小遣い稼ぎするということが知られている。

5) ヴェローチラヴック連邦国：主都「アンセストラル・フローク」

- ・獣人族な主な住民であるこの国には、都市と呼ばれるものがほとんどない。その中で唯一、都市と呼べるのがこの「アンセストラル・フローク」である。
- ・元々、遺跡が多数存在するため、その周囲に発生した探索者村が、この都市の基部である。
- ・多数の遺跡が消失と出現を繰り返す中、ある闘技場遺跡だけが、どれだけ挑戦者がクリアしても消えないものだった。「アンセストラル・フローク」はその消えない闘技場を中心に町が広がっている。
- ・アーティファクトの交易の最大拠点ともいわれ、その消えない闘技場遺跡から得られる武具を求めて、世界中から探索者や商人が訪れるようになっている。
- ・都市としては政治を行う施設が実は存在しない。各部族の代表が集まる時期には、都市外に巨大なテントが張られ、そこが議事堂の役割を担う。その際には闘技大会も行われるため、一時的に人口が倍増するといわれる。

=====